

2023 MARCH

通巻626号

AGRICULTURE FORESTRY FISHERIES

特集

03

月号

あふ

aff

日本
の
桜



農林水産業者の朝

鹿児島県

畜産農家の朝

廃校再生プロジェクト

京都府

旧中六人部小学校

農林水産省

日本の桜

01

春を彩る

桜を知ろう！

列島を鮮やかに染め上げる桜は、日本の春を象徴する存在です。
しかし、ひと言で桜といっても多くの種が存在していることや、
桜がどのようにして全国に植えられているかなど、気になることも多いのではないのでしょうか。
今回は、そんな知られざる桜の基礎知識や名前の由来などの豆知識をあわせて紹介します。



“一目千本”と称される山全体が淡紅色に染まる吉野山（奈良県吉野町）の眺め。満開時は計3万本が咲き誇る圧巻の光景に。

画像提供：奈良県吉野町



監修者は“サクラ博士”の勝木俊雄先生

国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所 九州支所 産官学民連携推進調整監

農学博士 勝木俊雄さん

1967年、福岡県生まれ。東京大学農学部卒。東京大学大学院農学生命科学研究科修了。
1992年に森林総合研究所多摩森林科学園に入所し、2022年4月より現職。桜を中心とした樹木学、植物分類学、森林生態学を専門とする。主な著書に岩波新書『桜』（岩波書店）、サイエンスアイ新書『桜の科学』（SBクリエイティブ）等

もっと知りたい！ 身近な桜たち

私たちが普段、見かける桜にはどんな特徴があるのでしょうか。

ここでは、桜の名所をはじめ公園や河川敷などでよく見かける、

代表的な桜を紹介します。

今年の春は、桜の特徴にも注目しながら、花見を楽しんでみませんか？

桜のつくりと部位の名前



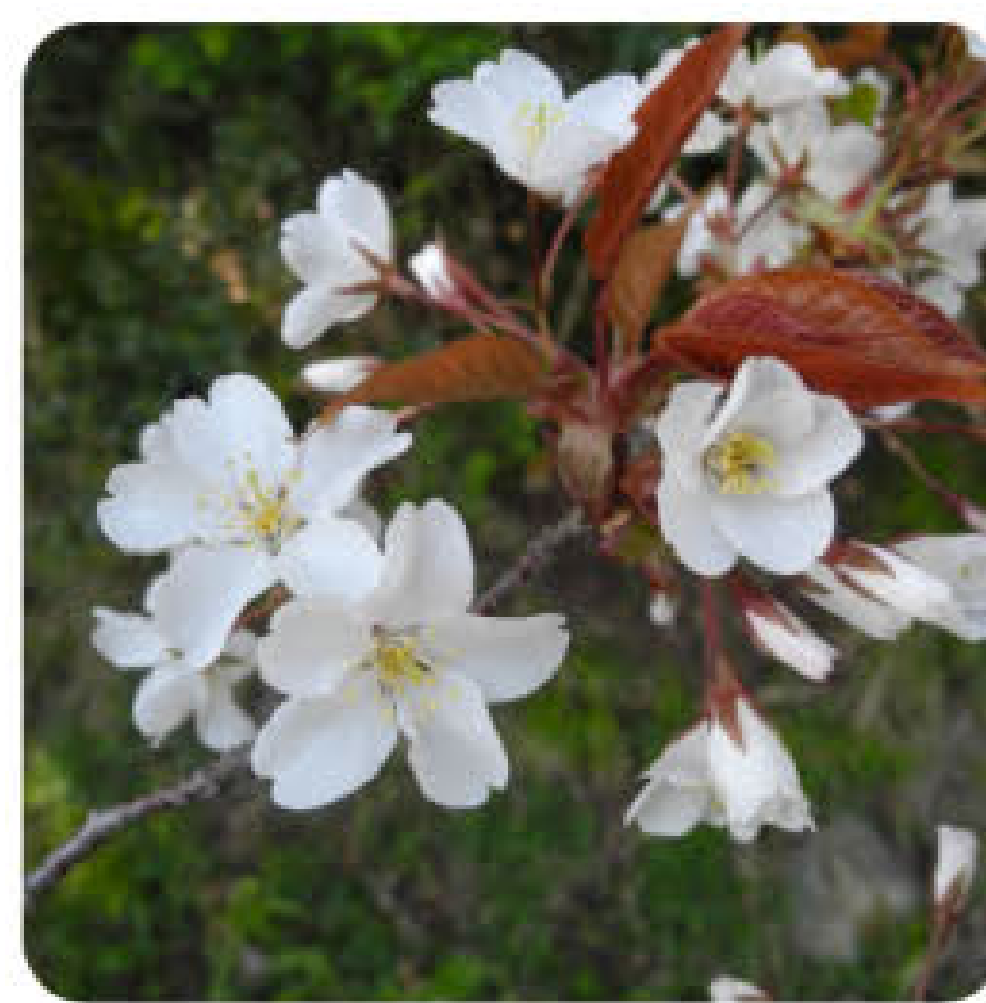
桜は、よく観察すると、花の色合いや形、咲く時期など、実にさまざまです。生物学では生き物を、種（species：スピーシーズ）という単位で分類します。実は桜はひとつの種ではなく、複数の種に対する総称なのです。そのため、同じ桜と呼ばれていても、種によって花の色合いや形が異なるのです。桜は国内に10種、世界には数十種が分布しており、それらは野生種とも呼ばれています。ここでは、日本の代表的な3種の桜を紹介します。

ヤマザクラ

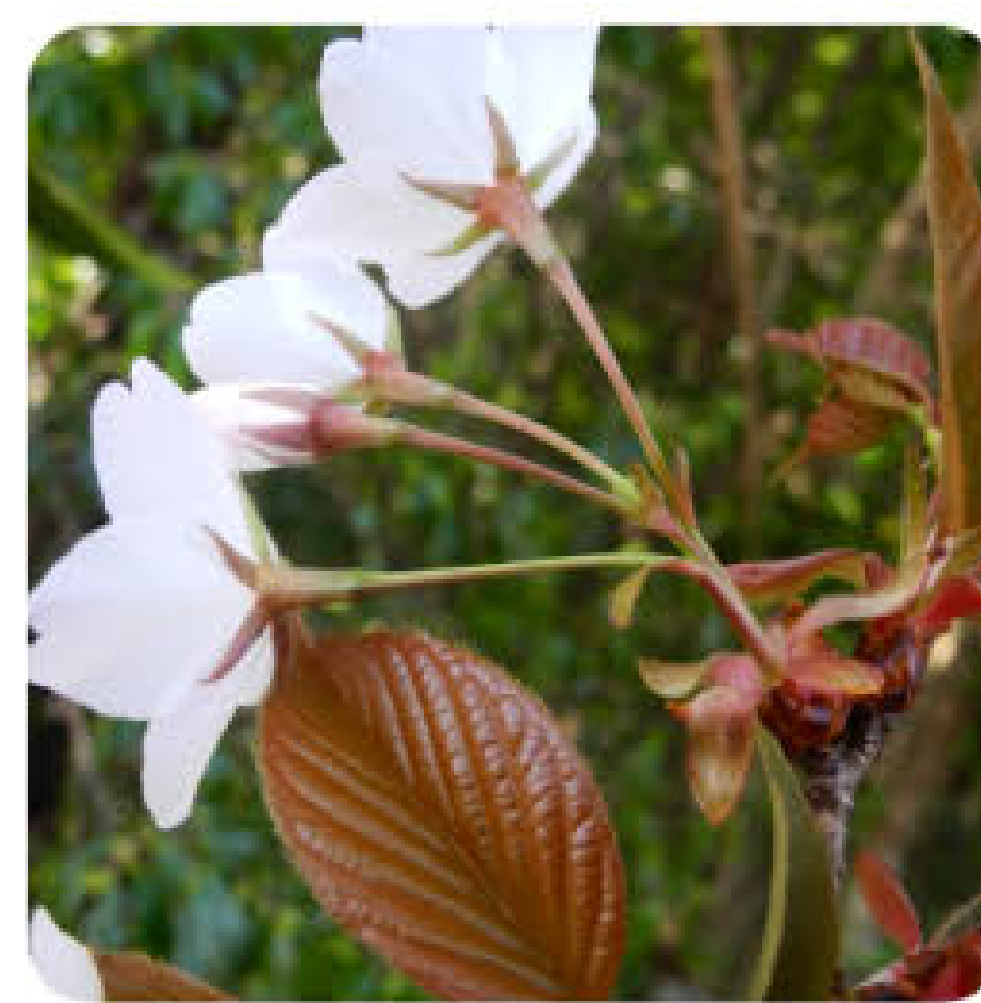
吉野山のうち、通称「滝桜」と呼ばれるエリアを見上げた光景。中千本バス操車場近くのトンネルを抜けると、ヤマザクラの“大滝”が吉野山を流れ落ちるような雄大な光景が広がる。

画像提供：奈良県吉野町

東北南部から九州まで国内に広く分布する種。山に自生する桜をすべて山桜と呼ぶこともありますが、植物分類学上のヤマザクラは、野生の桜の種のひとつに分類されます。暖温帯の二次林（伐採や風水害から再生した森林）によく見られ、関東以西では古くから身近な桜でした。このため、平安時代から江戸時代まで観賞用として、多くの人に愛でられてきました。二次林の他の樹種に先駆けて‘染井吉野’とほぼ同時期に開花し、春の訪れを伝えてくれます。



花弁はほぼ純白だが、開花と同時に赤褐色の若葉が伸びていることが特徴となる。



花芽から伸びた花序柄に2個から4個の花がつく。萼や花柄は無毛で、花床筒は長鐘形。



薪炭林として利用された二次林に多く、数本の幹が株立ちとなっていることが多い。

画像提供：いずれも森林総合研究所

画像提供…いずれも森林総合研究所



開花時にまだ葉は伸びていないため、白色から淡紅色の花弁の色合いがとてよく目立つ。



短い花序柄に2個から4個の花がつく。萼や花柄は有毛、花床筒は壺形で明らかなくびれがある。



樹皮は灰褐色で、サクラ類によく見られる光沢がある紫褐色のものとは異なる。



エドヒガン

岡山県真庭市にある、樹高18メートル、枝張り（全方位）20メートルと圧倒的な存在感を表す一本桜。元弘2年（1332年）、後醍醐天皇が隠岐配流の際にこの桜を称賛した言い伝えから「醍醐桜」の名に。樹齢は1000年とも。

画像提供：真庭観光局

東北から九州まで、ヤマザクラ同様に国内の広範囲に分布しています。また、韓国にも分布するほか、中国にも近縁種が存在しています。寺社などに植えられているものも多く、まれに冷温帯の自然林にも見られることがあります。老木木となり見事な花をつけるものは“一本桜”として大切に保護、観賞されており、国や自治体の天然記念物に指定されている個体も多い野生種です。なお開花時期はヤマザクラや‘染井吉野’よりもやや早く、開花時に鮮やかな色合いを見せてくれます。



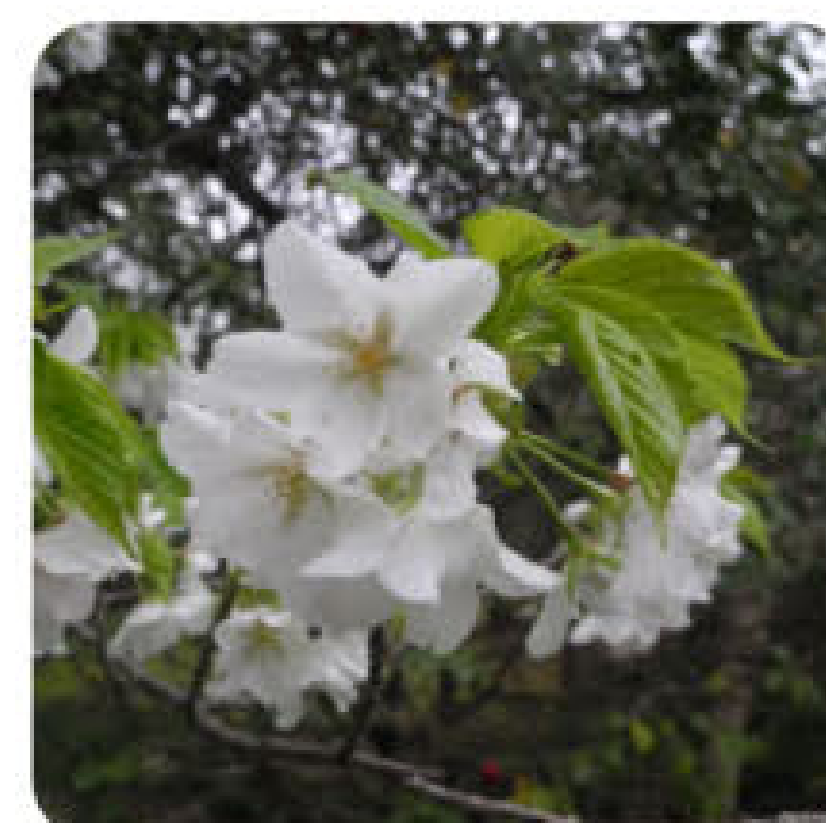
オオシマザクラ発祥地とされる伊豆諸島の大島島内に自生する数は150万本といわれ、島内のいたるところで真っ白な花を咲かせる。

画像提供：伊豆大島ナビ

もともとは、語源となった伊豆諸島の大島などに分布していた野生種です。比較的悪環境にも順応することに加え生育が早く、しかも花が大型で見栄えがすることから、公園などに多く植栽されるようになりました。しかしその繁殖力の強さから、現在では海岸林などの自然林を中心に、東北から九州まで国内各地において広く分布しつつあります。開花時期は個体差があるものの、ヤマザクラや‘染井吉野’よりもやや遅く開花します。

オオシマザクラ

画像提供…いずれも森林総合研究所



花弁は赤みのないほぼ純白で、開花と同時に緑色の若葉が伸びていることが特徴。



花芽から伸びた花序柄に3個から5個の花がつく。萼や花柄は無毛で花床筒は長鐘形。萼片に鋸歯がある。



花弁のほかにも、おしべと花弁の中間的な、旗弁（きべん）と呼ばれるものがしばしば見られる。

野生の桜は、同じ種同士で交配して子どもをつくり、生きてきました。人の親子が似ていても少し顔かたちが異なるように、同じ種の桜であっても花の色合いや形などに少し違いが見られることもあります。

一方、植物の種類には栽培品種という単位があります。人の手によりつくられたもので、有用な特徴を持つ植物を人が名前をつけて増殖することで、栽培品種となります。桜の栽培品種は100種類以上が流通していますが、消失するものや新しく生まれるものもあります。実は、もっとも身近な桜の種類である‘染井吉野’は野生する種ではなく、人の手によりつくられた栽培品種です。だからこそ、多数の‘染井吉野’の花の色合いや形は同じで、同じタイミングで咲くのです。

続いて、花見などでよく見かける、馴染み深い栽培品種の桜を紹介します。

＊ここでは、野生種と栽培品種を区別するため、野生種はヤマザクラのようにカタカナ表記を、栽培品種は‘染井吉野’のように、名前をシングルコーテーションで括る表記としています。



枝垂桜

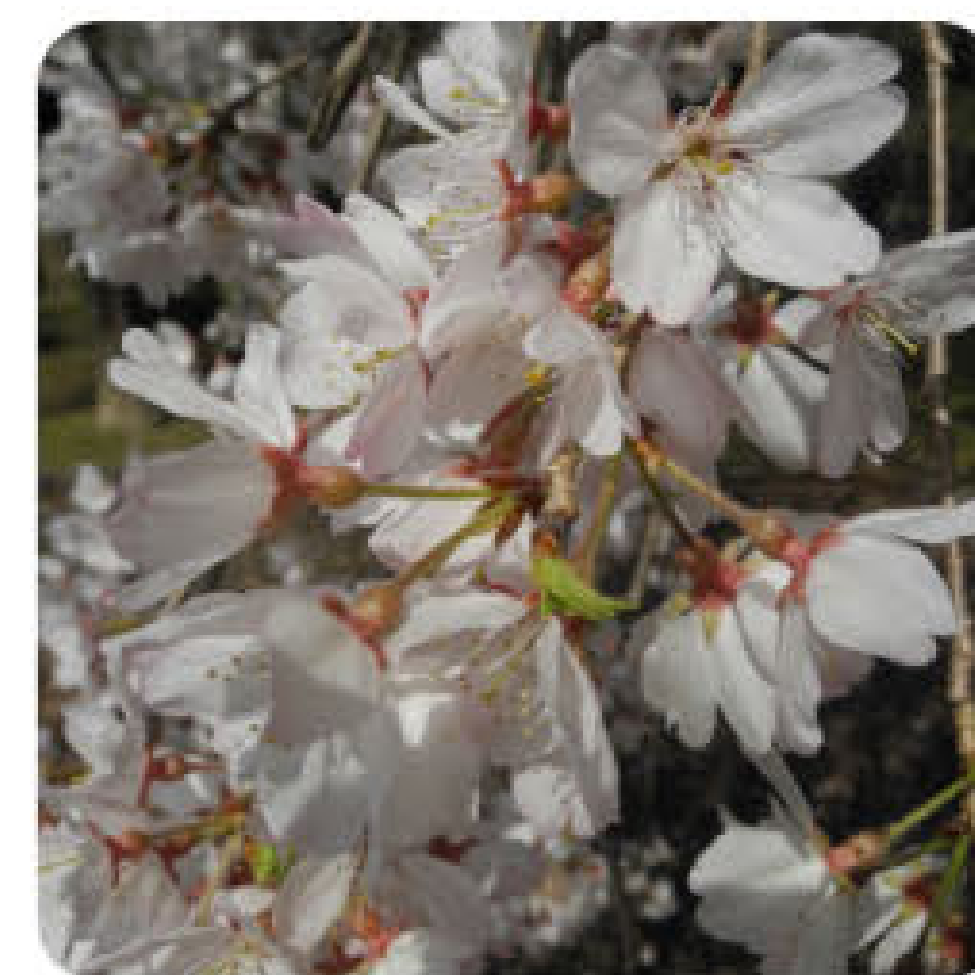
1922年、桜として初めて国の天然記念物に指定され昨年100周年を迎えた‘枝垂桜’の名木「三春滝桜」（福島県田村郡三春町）。樹高13.5メートル、枝張り（南側）4.5メートルの巨木から桜が流れ落ちるように咲く。

画像提供：三春まちづくり公社

‘枝垂桜’（しだれざくら）はエドヒガンから派生した栽培品種です。樹形が整っているため観賞用として、寺社や公園などに多く植栽されており、平安時代にはすでに存在していたと考えられています。また、枝垂れる形質は遺伝するもので、接木だけではなく実生からも増殖します。なお、野生種のエドヒガンはすべて枝先が上向きですが、栽培品種の‘枝垂桜’は下向きに伸びることが特徴です。



エドヒガンと同様に、‘枝垂桜’も、開花時にまだ葉は伸びていない。



枝の伸び方以外はエドヒガンと違いはなく萼や花柄は有毛、花床筒は壺形で明らかなくびれがある。



‘枝垂桜’には老木が多く、国や自治体の天然記念物に指定されている個体も多い。

画像提供：いずれも森林総合研究所



染井吉野

約4000本もの‘染井吉野’が咲き誇る高田城址公園（新潟県上越市）。無数のぼんぼりに照らされた桜と、ライトアップされた高田城三重櫓との共演が描き出す美しい様子は、日本三大夜桜のひとつに数えられる。

画像提供：上越市観光交流推進課

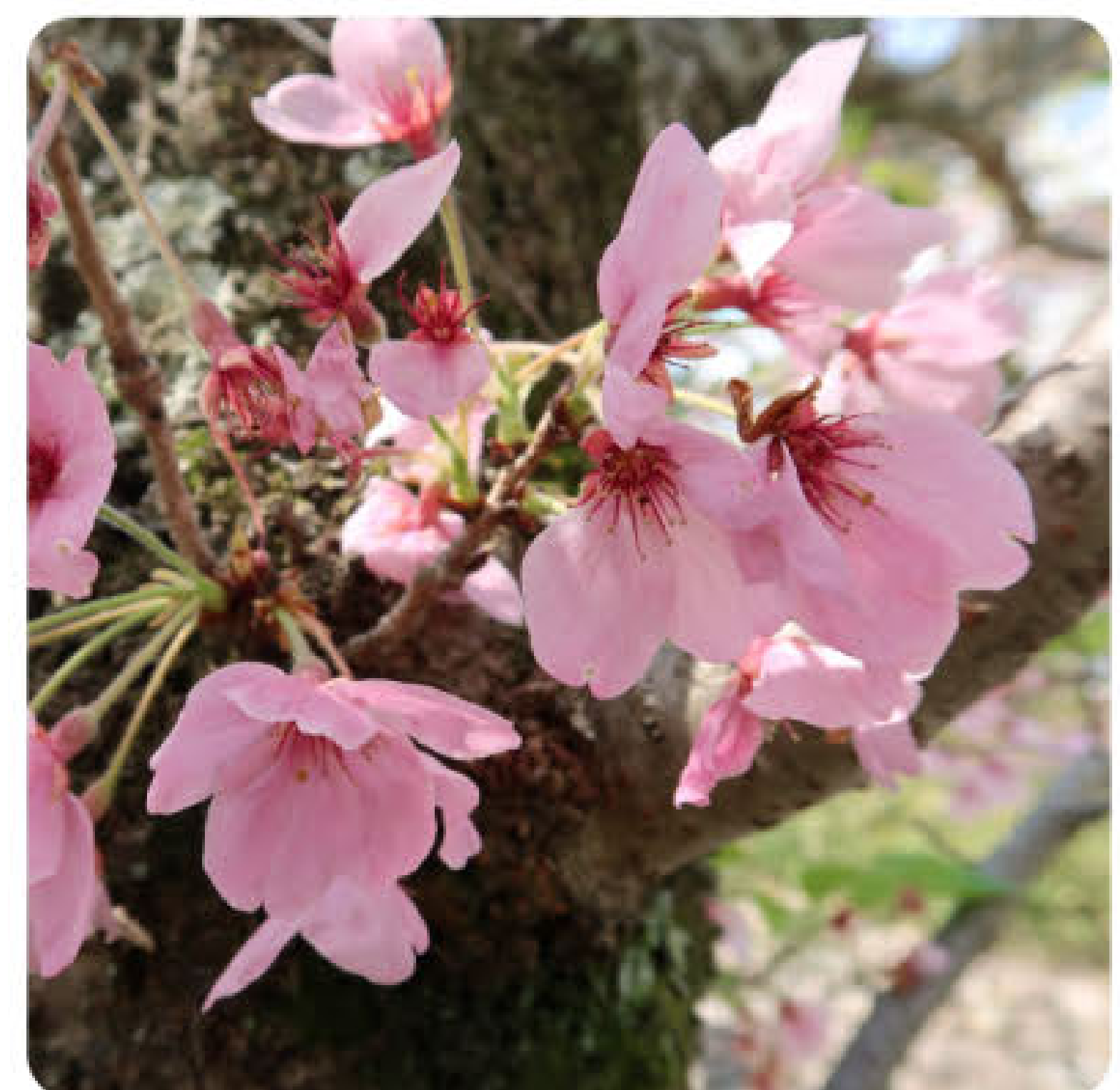
桜といえば、この‘染井吉野’を思い浮かべる人も多い、桜の代名詞的存在です。‘染井吉野’は、エドヒガンとオオシマザクラの雑種となる栽培品種で、江戸時代末期に江戸郊外の染井村（現在の豊島区駒込）から広まったとされています。成長が早くよく目立つ大きな花をつけることから、江戸時代にはすでに広まっていたお花見の文化も相まって、明治時代以降に全国で植えられるようになりました。現在では観賞用の桜として広く親しまれているのはご存知のとおりです。なお、接木で育種されるため、全国の‘染井吉野’はすべて同一本の原木からのクローンなのです。



エドヒガンに似て開花時に葉は伸びず、大きな淡紅色の花弁がよく目立つことが特徴。



短い花序柄に3個から5個の花がつく。萼や花柄は有毛で、花床筒はややくびれた筒形。



開花時の花弁は白に近い淡紅色だが、時間が経つと基部からだんだんと紅色に変色する。

画像提供：いずれも森林総合研究所

1世紀ぶりに新たな野生種が発見される！

2018年3月、紀伊半島で約100年ぶりに桜の新しい野生種が発見されたことがメディアなどで報じられ、大きな話題となりました。クマノザクラと命名されたその野生種を、調査し新種として発表したのは今回の企画を監修する勝木先生です。

「明治初期にヨーロッパから近代科学が導入されて以降、日本の植物も分類が行われ、桜も研究対象となり学名を名付けられました。しかし、クマザクラはヤマザクラとよく似ていたことから、学術的な調査から見落とされていたようです。はじめは、比較的形態が似ている種のカスミザクラの変種とも思いましたが、調査したところ開花時期が1ヶ月ほど異なります。となると交配もできず“血縁関係”もないことから、新種と考えて良いだろうと発表に至ったのです」

また勝木先生は、クマノザクラはカスミザクラから何らかの原因で分化したのではないかと推察しています。

なお、その和名はその種が三重県、奈良県、和歌山県の3県にまたがる山間部に自生し、その地域は古くから熊野地方と呼ばれていたことから、クマノザクラと命名。クマノザクラの研究と保全、育成と植林、観光への活用方法の検討などを目的とした民間組織を立ち上げ、地元住民と共に活動しています。



約100年ぶりに発見された新種のクマノザクラ。若く小ぶりなうちから、素朴ながら淡いピンク色の美しい花を咲かせます。

画像提供：森林総合研究所

- COLUMN -

神々の時代まで遡る!? 「桜」の語源とは？

『「咲く」という動詞に複数を意味する「ら」が加わり、元来は花が密生する植物全体を指す名称だった』。『「サ」は春に里へ舞い降りる田の神、サ神を表し、サ神が降り立つ座を「クラ」と呼び、桜の開花が田植えを始める基準となったことから、転じてそう名付けられた』など、諸説ある「桜」の語源。「古事記」などに登場する神武天皇の曾祖母であり、絶世の美女と伝えられる木花之佐久夜毘売（このはなのさくやびめ）の名前の「花」は桜を指し、さらに「さくや」が「さくら」へと転じたとされる説もあります。いずれも確証のない言い伝えで正確な語源は不明ですが、そんな伝説や逸話に思いを馳せながら桜を観れば、よりロマンチックな気分で楽しめるかもしれません。

成務7年（137年）に創祀された伊曾乃神社（愛媛県西条市）の境内に設置された、金色に輝く木花之佐久夜毘売のブロンズ像。

画像提供：伊曾乃神社



今週のまとめ

桜には国内の野山に自生していた野生種と、

人によってつくられた栽培品種が存在します。

2018年、約100年ぶりに新種クマノザクラが発表され、

私たちが魅了する桜の研究は日々続けられています。

日本の桜

02

日本の
桜の歴史

日本の春の風物詩である花見。毎年たくさんの人が咲き誇る桜を楽しみますが、この文化はいつから始まったのでしょうか。また、日本各地に植えられ、馴染み深い‘染井吉野’は、どのようにして全国へ広まっていったのか。今回は、そんな日本の桜の歴史をさまざまな角度から紐解いていきます。

*ここでは、野生種の桜をカタカナで、栽培品種をシングルクォーテーション（'）で括る表記としています。



桜は浮世絵にも多く描かれ、古くから親しまれていたことがうかがえます。
画像は葛飾北斎作「富嶽三十六景 東海道品川御殿山ノ不二」

**監修者は“サクラ博士”の勝木俊雄先生**

国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所 九州支所 産官学民連携推進調整監

農学博士 勝木俊雄さん

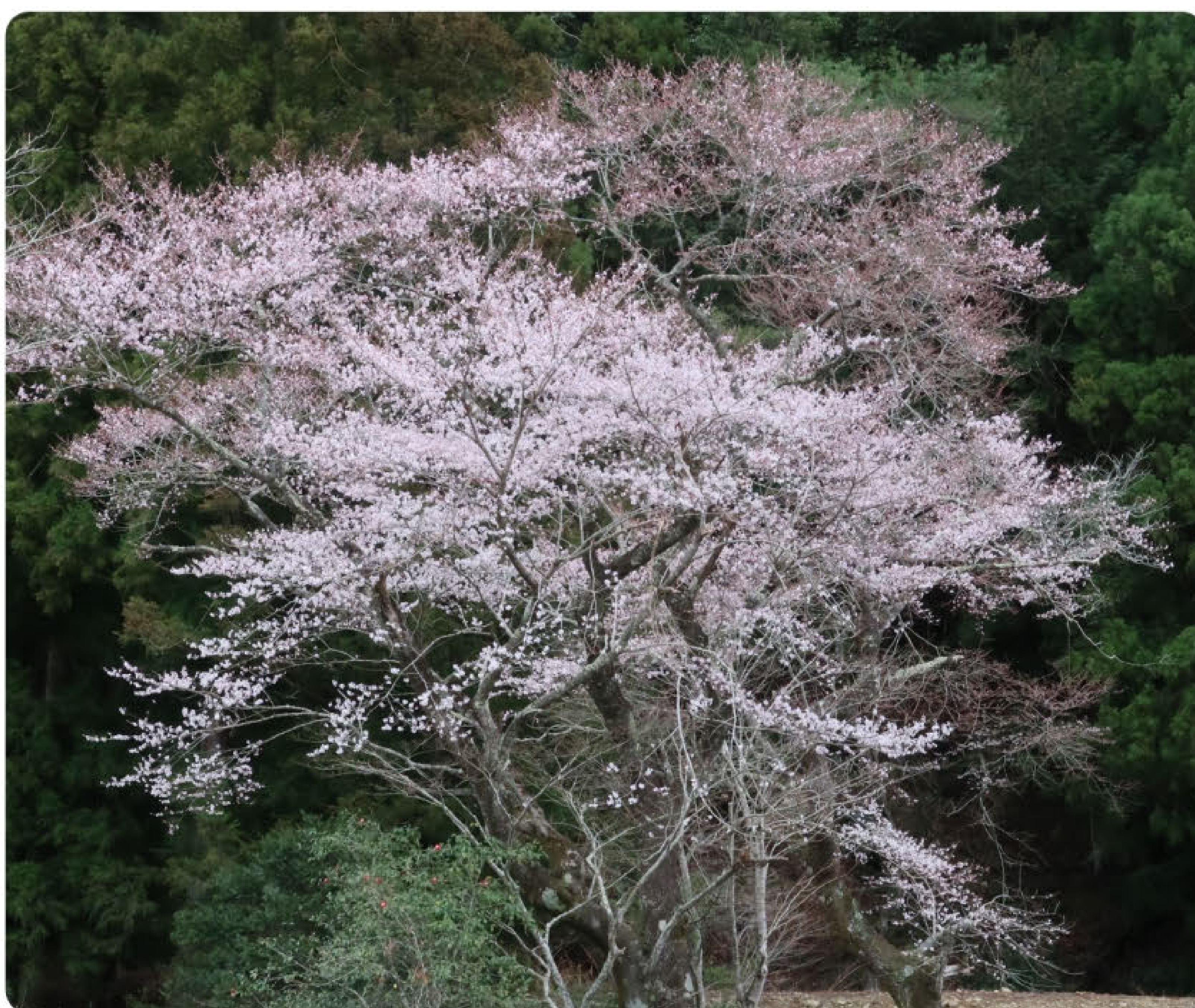
1967年、福岡県生まれ。東京大学農学部卒。東京大学大学院農学生命科学研究科修了。
1992年に森林総合研究所多摩森林科学園に入所し、2022年4月より現職。桜を中心とした樹木学、植物分類学、森林生態学を専門とする。主な著書に岩波新書『桜』（岩波書店）、サイエンス・アイ新書『桜の科学』（SBクリエイティブ）等

**桜は古くから日本人に
寄り添う春を呼ぶ使者**

第1週目のもっと知りたい！身近な桜たちでも紹介しましたが、日本には古くから野生種の桜が存在し、春になると一斉に花を咲かせ、春の訪れを知らせるとともに、日本人の目を楽しませてきました。
ヤマザクラ、エドヒガン、オオシマザクラが野生種を代表する3種です。なかでもヤマザクラは日本人にとってとても身近な存在でした。古来より春の到来を知らせる花樹として馴染み深く、江戸時代まで花見といえばヤマザクラがその対象だったので。また、エドヒガンは長生きする種であり、特に樹齢が古い巨木は“一本桜”として観光名所となったり、天然記念物に指定されている個体も存在します。



もっと知りたい！身近な桜たち
https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/2303/spe1_01.html#note



比較的長寿を保つエドヒガン。 画像提供：森林総合研究所

**鑑賞意識が高まった平安時代
和歌にも桜の歌が詠まれるように**

3月3日の桃の節句は、もともとは中国から伝わったもので、春を祝い無病息災を願う厄払いの「上巳（じょうし）の節句」という儀式でした。奈良時代まではその儀式に桃や梅を使用していましたが、いずれも中国から持ち込まれた観賞用の植物であり、日本には自生しない外来種でした。

「桃や梅は貴族社会で珍重されていましたが、平安時代になるとどこにでもある身近な桜を愛でようという機運が高まり、儀式や行事に桜が用いられるようになりました。奈良時代の『万葉集』にも桜が詠われていますが、儀式的な意味はなかったようです」（勝木先生）。

春の花の象徴として桜が詠まれるのは平安時代の「古今和歌集」からで、桜を愛でる文化が生まれたのは、この時代からだろうと推測されます。

古今和歌集には編者でもある紀貫之の作品など、桜が題材の歌が70首も詠まれている。

画像提供：ColBase (<https://colbase.nich.go.jp/>)

観賞意識の高まりから栽培化へ 日本最古の栽培品種も生まれる



栽培品種でもっとも古い歴史を持つ‘枝垂桜’。平安時代にはすでに存在していたという。 画像提供：森林総合研究所

平安時代には、ヤマザクラを用いた桜の栽培化も行われるようになりました。

「桜の鑑賞性が高まったのでしょう。庭に植えるための苗木生産も始まり、野生種ではない栽培品種も誕生しました。もっとも古い歴史を持つのが‘枝垂桜’であり、平安時代の文献に名前の記載が確認されています。なお、‘枝垂桜’は野生種であるエドヒガンの突然変異だと考えられています。現在も調査中ですが、当時、育てられた個体の子孫が、日本全国に広まったと推測されます」（勝木先生）。



オオシマザクラは、第1週目のもっと知りたい！身近な桜たちで紹介したとおり伊豆諸島の大島などに自生していた野生種であり、当時の京都の人々はその存在を知りません。しかし、室町時代の文献にはオオシマザクラらしき記述が見受けられるようになりました。

「伊豆諸島から鎌倉に渡り育てられていたものが、すでにヤマザクラが栽培されていた京都へ持ち込まれたと考えられます」（勝木先生）。

平安時代に始まった桜の栽培は鎌倉時代に発展し、流通が始まっていたのかもしれない。

伊豆諸島から鎌倉へ渡ったと思われるオオシマザクラ。歴代の“鎌倉殿”も白き桜を愛でていたのかもしれない。

画像提供：森林総合研究所

全国に植樹されている すべての‘染井吉野’は江戸時代に 生まれた1本のクローンだった

桜の代名詞ともいえる‘染井吉野’は、エドヒガンとオオシマザクラによる種間交雑により生まれた栽培品種であることは、第1週のもっと知りたい！身近な桜たちで紹介したとおりです。そして、その発祥地とされ、以前よりヤマザクラの苗木が生産されていた染井村（現在の豊島区駒込）が名前の由来となっています。

「江戸時代の頃、染井村には多くの植木職人が住んでいて、そこで接ぎ木苗が作られていたと考えられます。増殖した‘染井吉野’の接ぎ木苗は初期成長が早く、また、大きく美しい花が多くつくことがわかり、さらに各地へと広まっていったのでしょう」（勝木先生）。

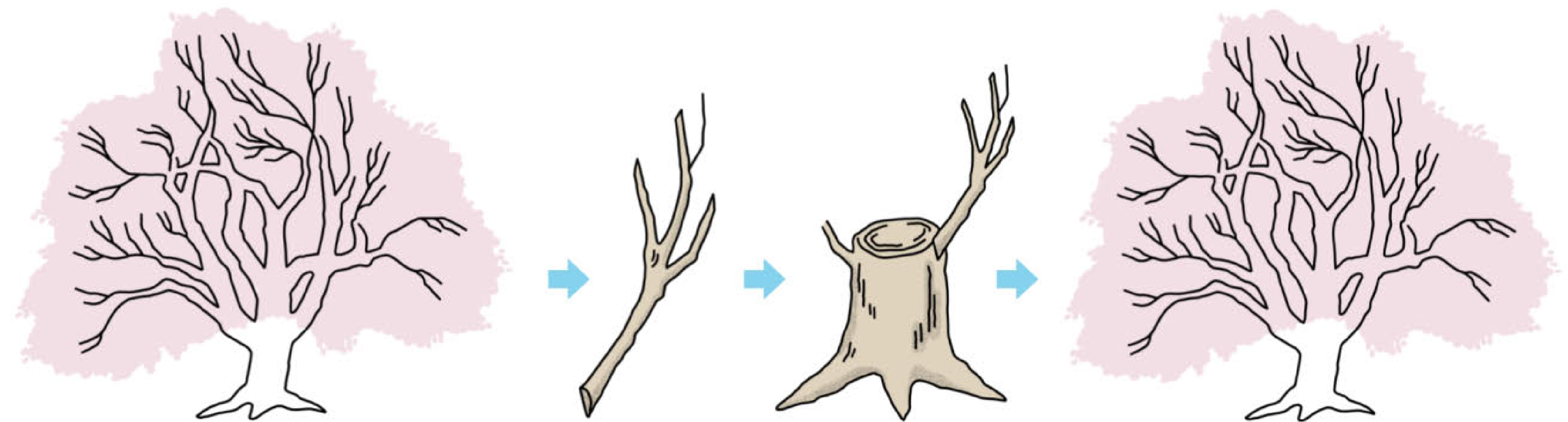
‘染井吉野’のはじめの1本が、どのように生まれたのかはわかりませんが、そのクローンである個体が、明治以降に全国で植樹された結果、いま、私たちの目を楽しませてくれていると思うと、‘染井吉野’に宿る悠久の時を感じさせられます。



JR駒込駅前にある「染井吉野桜記念公園」の記念碑。園内には‘染井吉野’の“親”であるエドヒガンとオオシマザクラが植樹されている。

画像提供：豊島区

〔 ‘染井吉野’はこうして全国へ広まった 〕



‘染井吉野’が全国へと広まった理由を勝木先生は次のように語ります。「接ぎ木に適し環境適応性も高いことから、明治時代以降全国で植樹されました。また、接ぎ木苗が現在まで安価に作り続けられていることも大きな要因です」。接ぎ木された‘染井吉野’は、わずか2年で花を咲かせることもあるとか。ほかの桜が苗木から花が咲くまで10年ほどかかることを考えると、‘染井吉野’の成長の速さには驚かされます。

芸術に大きく影響を与える桜の魅力

平安時代より日本人に愛でられてきた桜は、芸術の世界にも大きな影響を与えています。古くは万葉集にも桜を詠んだ歌が44首あり、古今和歌集には70首が詠まれています。江戸時代に発達した浮世絵にも多くの桜が描かれており、歌川広重の「名所江戸百景」や葛飾北斎の「富嶽三十六景」では、庶民が花見を楽しむ様子がうかがえます。

演劇の世界でも能の「西行桜」や、歌舞伎の「義経千本桜」など、桜を演出要素とする作品が存在し、それは、現代の映画やドラマでも共通しています。また、桜を題材とした曲も毎年春になると登場するなど、桜は、芸術家や表現者の創作意欲を刺激し、多くの名作を生み出す原動力にもなっているのです。



「義経千本桜」 吉野山の桜が歌舞伎の舞台に華を添える。

©松竹株式会社（無断転載禁止）



桜の開花宣言に定義はあるの？桜からサクランボはならないの？など、
桜にまつわる素朴な疑問を勝木先生に伺いました。

Q₁.

開花や満開に
定義はあるの？

勝木先生の
Answer

気象庁では、開花日は標本木で5輪から6輪以上の花が咲いた状態となった最初の日、満開日は同じ標本木で8割以上のつぼみが開いた状態となった最初の日と定義されています。

なお、桜の開花時期には前年の秋から、当年春にかけての気温が大きく影響します。そのため、気象関連の民間会社が発表する開花・満開予測は、前年秋からの気温の観測値と予測値をもとに、各社が独自の手法を用いて導き出しています。

Q₂.

桜にサクランボは
ならないの？

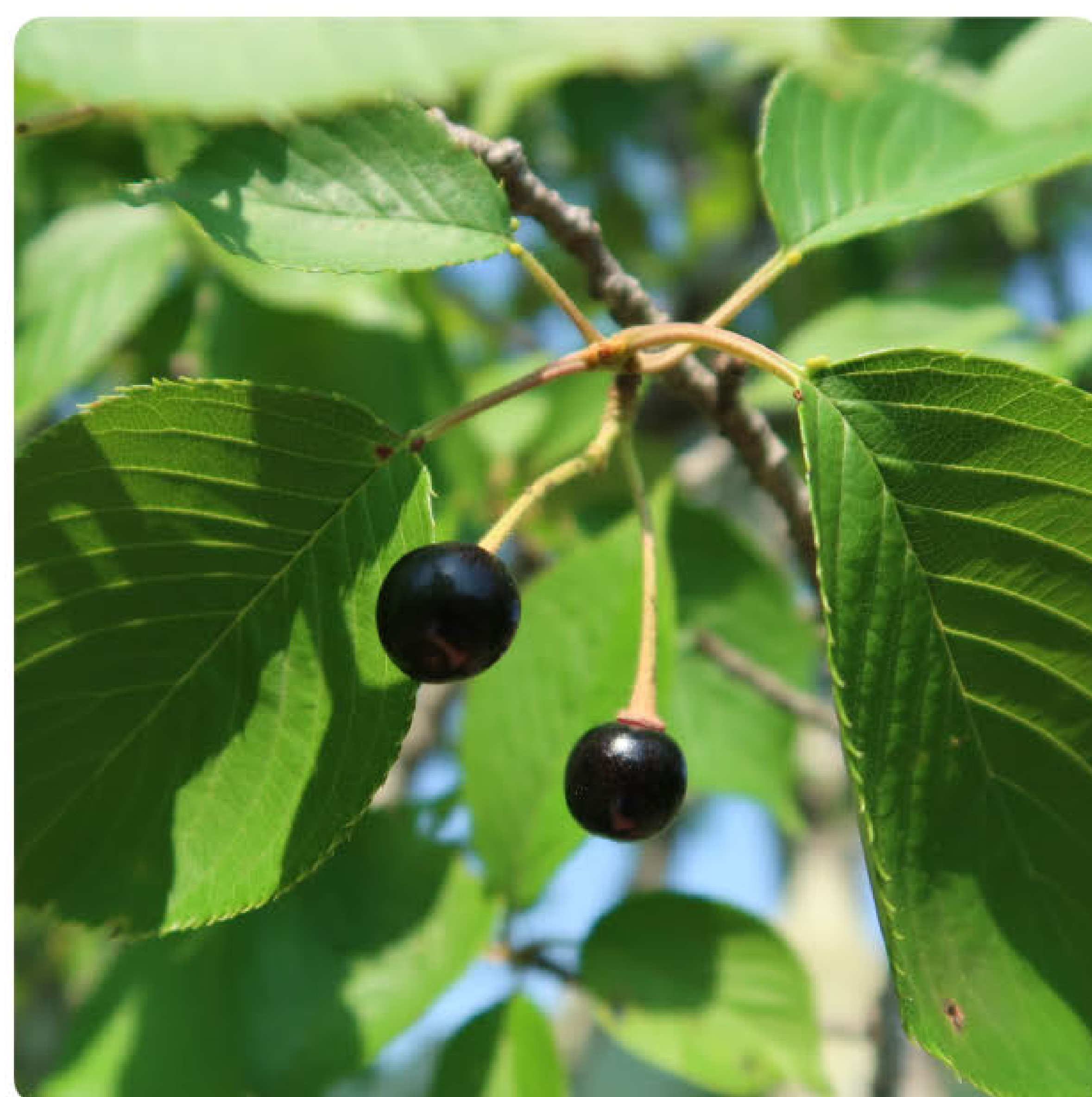
勝木先生の
Answer

結論からいえばなります。‘染井吉野’にも果実があるからです。ただし、スーパーマーケットなどで販売されている食用のサクランボとは異なります。食用のサクランボは別名「桜桃」とも呼ばれ、日本で栽培される多くはセイヨウミザクラというヨーロッパから西アジア原産の桜になる果実のことを指します。なお、セイヨウミザクラは人為的に受粉させないと結実量が少なくなることから、人工受粉を行うなど栽培には大変手間のかかる果物なのです。



桜の開花の観測対象となる「標本木」は、基本的に各都道府県ごとに一本ずつ存在する。樹種は原則として‘染井吉野’だが、北海道はオオヤマザクラ、沖縄県はカンヒザクラを標本木とする。画像は靖国神社の境内にある東京の標本木。

画像提供：靖国神社



‘染井吉野’の果実。食用のサクランボとは異なり、その実は黒く小さい。また、わずかに毒性物質が含まれるため食べるのは厳禁だ。

画像提供：森林総合研究所

Q₃.

桜と梅、桃は同じ仲間なの？

勝木先生の
Answer

淡紅色の可憐な花がつく近縁の仲間ではありますが、違いも見られます。まず、梅と桃は中国からの外来種である一方、桜は古来より日本に自生していた在来種であることが挙げられます。花の色はそれぞれの種により異なりますが、香りは、大半の種が薄くほのかな桜と桃に対し梅はとても強いことはご存知のとおりです。さらに、それぞれ開花時期にも差があり、梅が1月下旬から4月下旬、桃が3月上旬から4月下旬、そして桜が3月中旬から4月下旬にかけて咲き誇ります。



〔桜〕

ひとつの節（前年についた葉の基部）に、基本的に1個の葉芽あるいは1個の花芽がつく。1個の花芽に複数個の花がつき、花柄は長い。開花期に葉芽から葉はあまり伸びない。

*画像はエドヒガン



〔梅〕

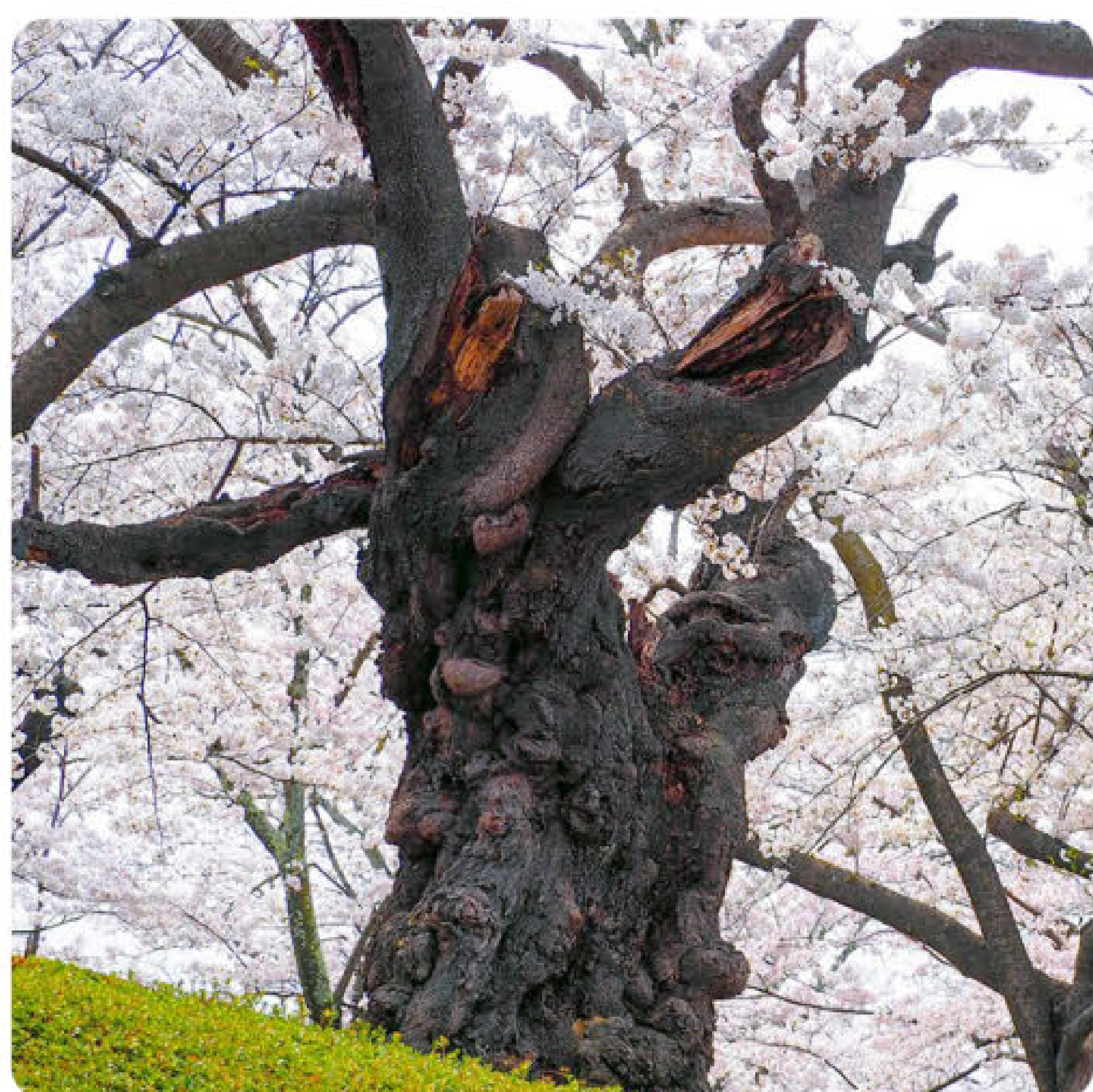
ひとつの節に、基本的に1個の葉芽と2個の花芽がつく。1個の花芽に1個の花がつき、花柄は短い。開花期に葉芽は開かない。

画像提供：森林総合研究所



〔桃〕

ひとつの節に、基本的に1個の葉芽と2個の花芽がつく。1個の花芽に1個の花がつき、花柄は短い。開花期に葉芽から葉をつけた枝が伸びる。

Q₄.

桜の樹に寿命はあるの？

勝木先生の
Answer

桜のように長命の樹木は、人間のような寿命という概念は存在しません。日当たりが良く、根が呼吸し水分を吸収しやすい土壌と育成に適した環境作りがなされ、かつ病害虫の発生などにも適切に対応し保護されていれば、ほぼ半永久的に生き続けることができるのです。もちろん樹齢を重ねることで老化が訪れますが、これも適切にケアすることで樹勢を取り戻すことが可能です。

主に文献による樹齢調査で、1878年から1880年に植樹された福島県郡山市の開成山公園の桜が、幹が現存する日本最古の‘染井吉野’の個体だろうと考えられている。

画像提供：郡山市観光協会

今週のまとめ

桜の歴史を紐解くと、古くから日本人に愛されてきたことがわかります。

お馴染みの‘染井吉野’はすべてが1本の原木のクローンだったのです。

桜は適切な環境で育て保護すれば100年以上生き続けます。

日本の桜

03

観るだけじゃない
桜の魅力

日本の桜は、私たちの目を楽しませ心を浮き立たせます。
しかし、桜の魅力はそれだけにとどまりません。
今回は、桜を材料とした使い心地の良い伝統工芸品や華やかなスイーツなど、
さまざまな楽しみ方で桜の魅力を紹介します。

*ここでは、野生種の桜をカタカナで、栽培品種をシングルコーテーション（'）で括る表記としています。



桜の樹の質感を楽しむ

ひとつとして同じ柄のない模様が美しい樹皮。
そして、家具への使用に向いた滑らかで温もりを感じる風合いで、
ヤマザクラは古くから使う人を魅了してきました。

渋く奥深い色合いが重厚な 武士の内職で発展した 伝統的工芸品

ヤマザクラ類の樹皮を用いて作る「樺（かば）細工」は、武家屋敷が藩政時代の面影を残す“東北の小京都”秋田県仙北市角館町で生産されている、約250年もの歴史を持つ秋田を代表する伝統的工芸品です。

始まりは天明年間（1781年から1789年）の当時、角館を治めていた佐竹北家に仕える藤村彦六が、御処野家（現在の秋田県合川町鎌沢）より製造技術を伝授され、下級武士の手内職として産業化されました。

その魅力は、ヤマザクラの樹皮特有の光沢、ひとつとして同じ柄が存在しない自然素材ならではの模様です。また、使い込むほどに手に馴染み味わいを増すその質感もまた、工芸品としての重厚な存在感を表します。



樹皮を貼り付ける工程で使用される、樺細工専用の金ゴテ。熱した金ゴテを駆使して樹皮に丸みや角度を付け丁寧に貼り付けていく。

樹皮の模様が豊かな表情を生む



【型もの】

木型に合わせて芯を作り、その芯に膠（にかわ）で樺を貼り付け筒状にする製法です。古くは印籠などに用いられましたが、現在では茶筒が代表的な製品となります。



【木地もの】

下地に木地を使った製法で、文箱や硯箱（すずりばこ）などの箱物が作られるほか、テーブルなど大きな製品も作られています。製品によっては繊細な模様付けが行われます。



【たたみもの】

磨いた樹皮を数十枚重ね貼りした塊を彫刻で削り出す製法です。現在ではブローチやペンダント、ループタイ等のアクセサリが作られています。樹皮断面の層や磨き上げられた光沢が魅力です。

ぬくもり感じる桜で造る家具



家具の原料となるヤマザクラ。 画像提供：家具工房つなぎ

家具として使用される木材にはスギやヒノキ、ナラなどが知られていますが、ヤマザクラも少量ながら木材として流通し、加工・販売されています。色合いは明るくナチュラルで、磨くことで艶のある光沢が現れることから、家具や楽器等の木材製品に使用し、販売されている場合もあります。

日本人に古くから愛されてきたヤマザクラを使用した製品を生活に取り入れることで、桜の温もりをより身近に感じてみてはいかがでしょうか。



左：ヤマザクラで作られたデスクとチェア。右：チェスト。穏やかな木目と艶のある質感、そして滑らかな手触りに温もりを感じる。 画像提供：いずれも家具工房つなぎ

桜の豊かな風味を味わう

桜湯や桜餅のみならず、春になるとスイーツなど
桜を用いた料理や食品を多く見かけます。
その風味を楽しみながらのお花見は、
桜に満たされる、豊かなひとときになりそうです。

桜のスモークチップで いつもの味を香り高く

肉や魚介類、卵にチーズ、そしてナッツやスナックなど、好きな食材にスモーキーな風味を付け、ひと味違った一品に仕上げる燻製料理は、バーベキューやキャンプなどのアウトドアシーンだけでなく、家庭でもできる手軽な調理として人気があります。

食材を燻製するために必要なのが煙の元となるスモークチップやスモークウッドです。スモークチップにはヒッコリーやナラ、リンゴなどの種類がありますが、なかでも桜は香りが高く比較的短時間で食材に風味を付けることができるため、誰もが気軽に燻製料理を楽しめます。この春、桜のスモークチップで、好みの食材を香り高く仕上げてみませんか？



右：蓋を開けた瞬間に香る、桜チップのスモーキーな風味が食欲をそそる。

上：香り高い桜チップは高温短時間の「熟燻」調理向き。

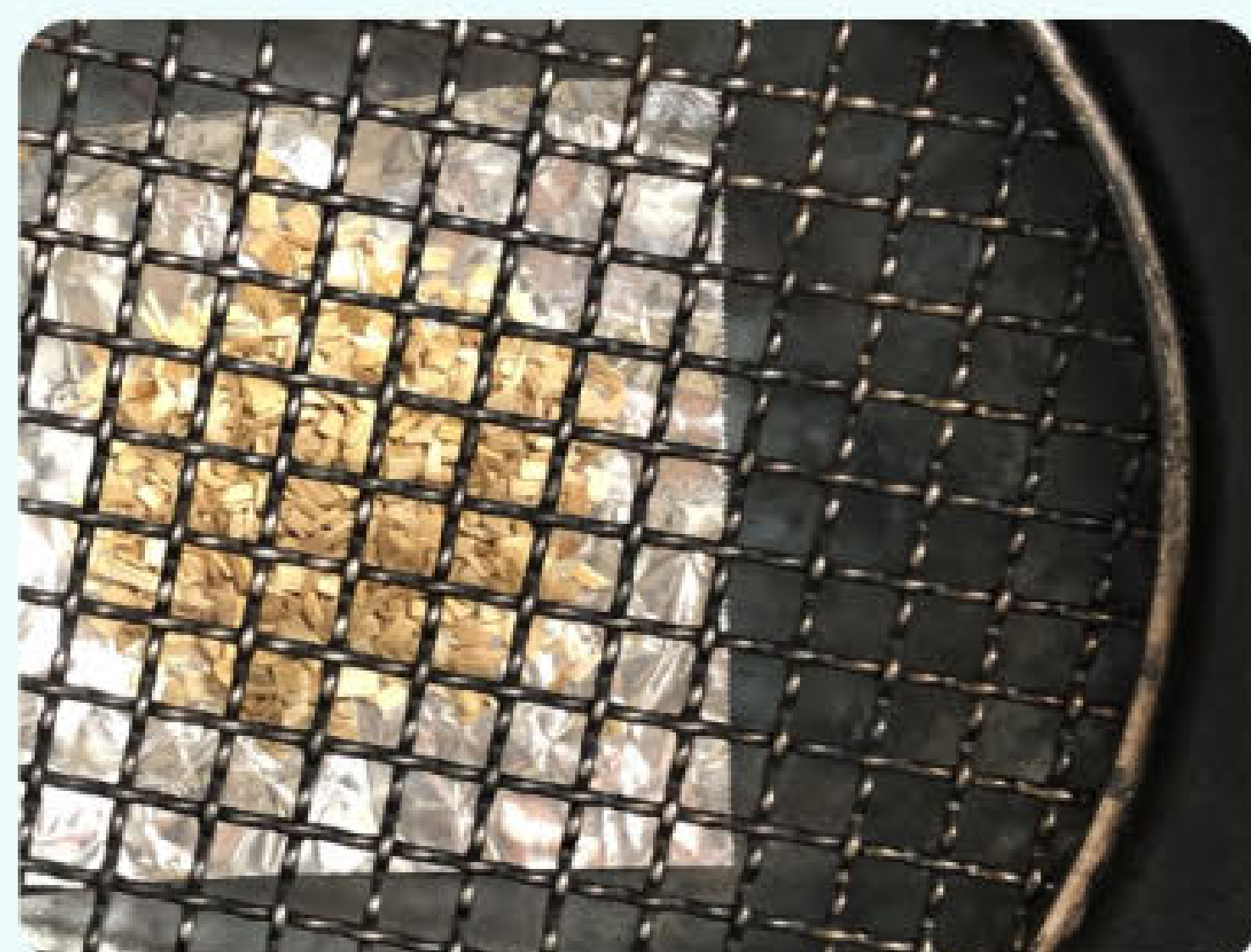
画像提供：アフロ



- COLUMN -

自宅でも簡単！燻製料理の作り方

桜チップのほかフライパンとその直径より小さい網、そしてアルミホイルがあれば
家庭でも簡単に燻製料理が楽しめます。好きな食材をスモークしてみましょう！



フライパンにアルミホイルを敷き、その上に桜のスモークチップひとつかみ（10グラムから15グラム）を乗せ、網を置けば準備完了です。



網の上に、煙が行き渡るよう間隔をあけ、好みの食材を並べ蓋をする。まずは中火にかけ、煙が出てきたら弱火に変えます。



10分間燻したら火を止め、煙が落ち着くまで5分から10分ほど待てば完成！使用後のチップは水を掛け完全に消火し、適切に処分しましょう。

画像提供：いずれも（一社）日本燻製協会

料理に可憐な花を咲かせ ハレの日を華やかに彩る

桜湯などに用いられるのは桜の塩漬けといい、多くは栽培品種である‘八重桜’を素材としたものです。桜の塩漬けの産地として有名な神奈川県秦野市千村地区で製造される「丹沢のさくら漬」は、白梅酢と塩だけで漬け込んだ、シンプルにして上品な一品です。また、県と生産者団体が構成するかながわブランド振興協議会が、統一の生産・出荷基準を守り、一定の品質を確保するなどの要件を満たす農林水産物や加工品だけで認められる「かながわブランド」に登録されています。

なお、桜餅に使用される葉の多くは、餅を巻くことに適した大きさと産毛が少なく食べやすい、オオシマザクラの葉を塩漬けにしたものです。葉を巻くことで餅の乾燥を防ぎ、桜特有の甘く華やかな香りとほのかな塩味を付けてくれます。

毎年、春になると桜湯や桜餅だけでなく、桜ご飯や桜の天ぷら、ケーキやビールなど、桜を使用したりイメージした料理や食品が多く出回り、桜の味わいで春を感じることができます。



お湯で溶けば桜湯に、米と一緒に炊き込めば桜ご飯にと、料理や飲み物に春の装いをもたらす桜の塩漬け。

桜を使用したメニューも

*下記商品は、いずれも期間もしくは数量限定商品です。



‘八重桜’の花びらと葉を原料に使用した、桜が香るビール。

画像提供：サントガーレン



桜風味をプラスした、ストロベリーチョコレートとホワイトチョコレート。

画像提供：ROYCE'



桜風味の生地とクリームで桜餡を巻いて仕上げた、見た目も味も桜満開のロールケーキ。

画像提供：ISHIYA



桜の花びら入りはちみつ。紅茶やヨーグルトに入れるだけで、食卓を華やかに彩る。

画像提供：金市商店

関東と関西では形も材料も違う桜餅



慶長年間（1596年から1615年）に創建された、天台宗の寺。8代将軍、徳川吉宗の世に「長命寺桜もち」が生まれ、花見客の人気を博した。

画像提供：墨田区観光協会

江戸時代、向島（現在の東京都墨田区）の長命寺の門番をしていた山本新六という人が、隅田川土手の桜の葉を塩漬けにしたあん入りの餅「桜もち」を考案したといわれています。

また、関東と関西では、桜餅の製法と形状が異なることをご存知でしょうか。関東は水溶きした小麦粉をクレープ状に焼き、筒状にしたあんを包む一方、関西では、もち米を蒸して乾燥させた後に粗く挽いた道明寺粉が使用されており、饅頭の生地にあんを包んだものが食べられています。クレープのような見た目の関東風ともち米の粒感が楽しめる関西風、いずれも美味しい春の味覚です。

【 関東風 】



【 関西風 】



画像提供：富岡典子
出典：いずれも農林水産省「うちの郷土料理」

今週のまとめ

ヤマザクラは伝統工芸や家具にも使用されています。

桜の花や葉を使った料理やスイーツで桜を味わいましょう。

春の訪れを桜から感じてみませんか。

日本の桜

04

桜をまもる

樹木医の仕事

毎年、私たちが満開の桜を楽しむのは、樹木の専門家である樹木医が、
確かな知識と技術で適切に桜を保護・管理してくれているからです。
今回は、国指定の天然記念物である山高神代桜（山梨県北杜市）など
多くの桜の保護と再生を手掛けてきた桜の名医である樹木医の和田博幸さんに、
桜をまもる仕事についてお話を伺いました。

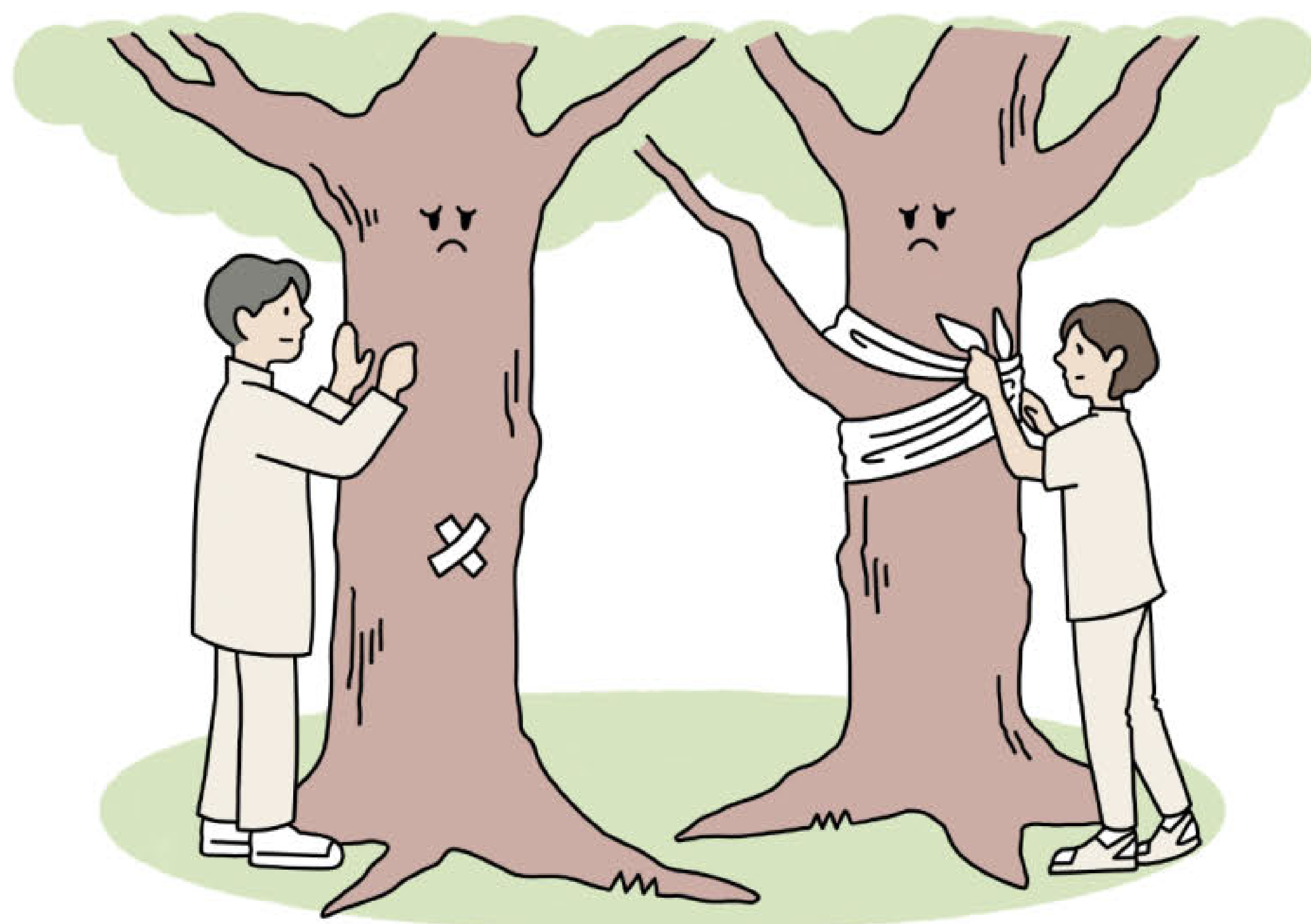
*ここでは、野生種の桜をカタカナで、栽培品種をシングルクォーテーション（'）で括る表記としています。



全国で桜の保護を手掛けてきた
この方にお話をうかがいました！

樹木医 **和田博幸さん**

1961年、群馬県高崎市生まれ。東京農業大学農学部農芸化学科卒。サークル「植物愛好会」への所属をきっかけに植物の世界へ。卒業後、(公財)日本花の会へ就職し、桜の名所づくりを中心に桜に関する調査、研究等を担当。現在、樹木医として多方面で活動する。(公財)日本花の会 特任研究員、(一社)日本樹木医会 副会長、NPO法人みどり環境ネットワーク! 理事長、NPO法人東京樹木医プロジェクト 理事、法政大学生命科学部応用植物科学科 兼任教員



樹木医は樹木の状態を診察し、適切な治療や保護を行う樹木のお医者さんです。＊イラストはイメージです

樹木医は樹木の生態を知り尽くす 樹木のプロフェッショナル

樹木医は、1991年から始まった認定資格です。資格を認定する(一財)日本緑化センターでは、『樹木の生理・生態を理解し、調査、設計監理、維持管理業務に精通し、診断及び治療をととして落枝、倒木等による人的、物損被害の抑制や後継樹の保護育成ならびに樹木の保護・育成に関する知識の普及及び指導を行う専門家』と定義されている樹木のプロフェッショナルです。

「現在、全国に約3,000人が樹木医として認定されています。農学系の学校や学部で学んだ方や造園業などでの職務経験がある方が多く、樹木医研修受講者選抜試験に合格し、研修の後に認定されます」と、和田さんはいいます。

枯山水の庭を管理するアルバイトで植物管理の基礎を学んだ大学時代

大学時代の和田さんの専門は栄養生物学。「食品がどのように体内で代謝されるのか、試験管を振りデータを取る毎日でした」という和田さんが植物との関係を深めたのは、所属サークル「植物愛好会」で代々受け継がれてきたアルバイトであったと振り返ります。

「300坪もの広さがある枯山水の庭でしたが、桜をはじめツツジやシャクナゲなどの花もある一風変わった庭で、草むしりのアルバイトをしていた3年間で植物の基礎を学ばせていただきました。製菓会社と食品会社から内定をもらっていたのですが、バイト先の関係者だった、当事の花の会の事務局長から誘っていただき、植物に興味を抱き始めていたこともあり、花の会へ就職したのです」

同会が「桜の名所づくり」をおこなっていたため、和田さんも桜の植栽や保全活動に従事。その経験を活かし、樹木医になったといいます。

「樹木医という仕事は様々な人たちとのつながりから、植物の病気や治療例をはじめ、土壌改良や水はけの改善に関する土木関連の最新情報が手に入ります。そうしたことに魅力を感じ樹木医となりました」



樹木の状態を診断し適切な処置を行って樹勢回復を図る

樹木医として活動してきたこれまでの約30年間で携わった桜の名所は、北海道から沖縄県まで約70ヶ所にのぼるといいます。今回は、和田さんが実際に保護活動を行っている千鳥ヶ淵緑道（東京都千代田区）で、樹木医の仕事について話を伺いました。

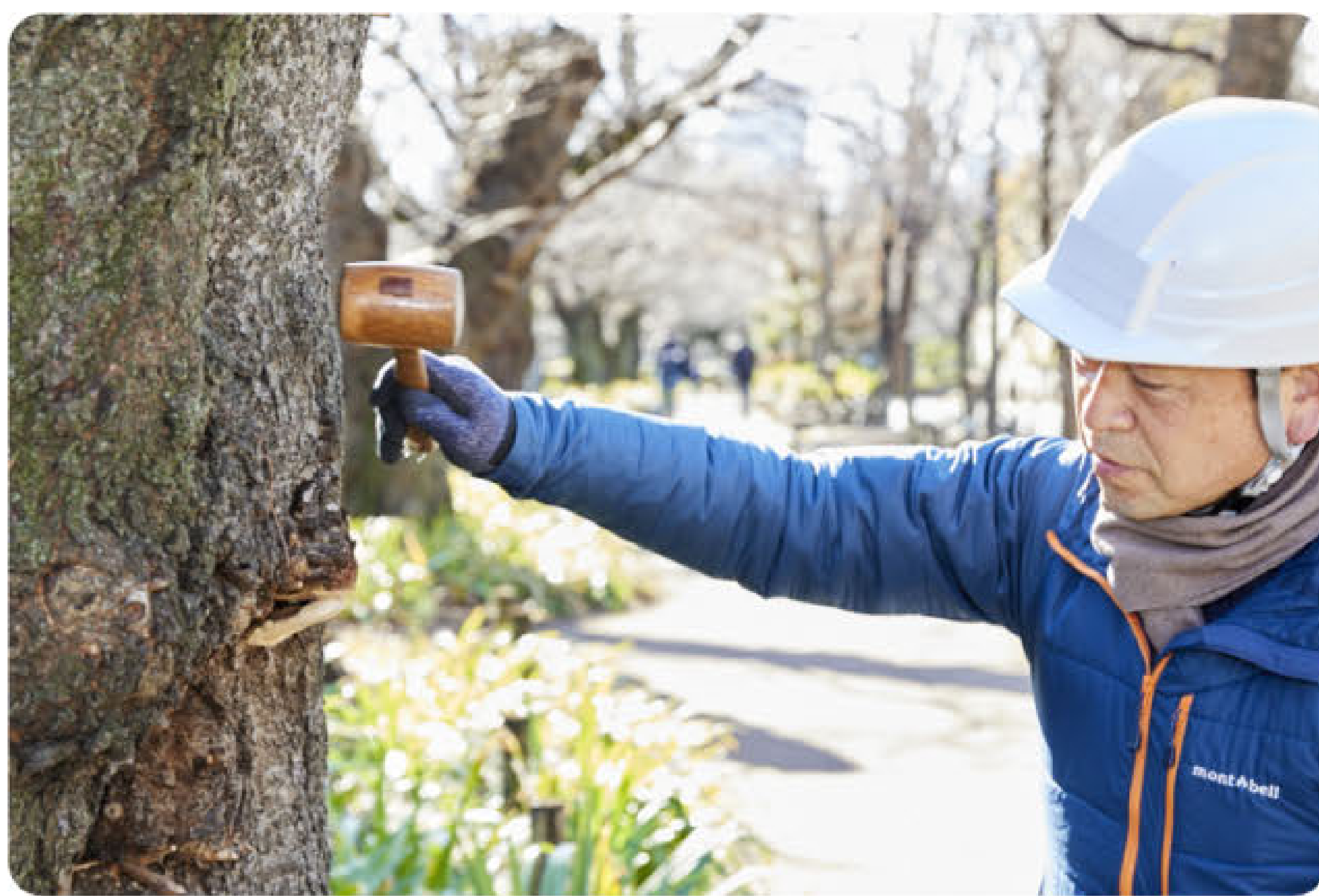


飛来した胞子が付着し幹内部に侵入するキノコ「コフキササルノコシカケ」。幹の内部を大きく腐朽させてしまうことも。



腐朽が進んで強度が保てなくなり、倒木の恐れがあるため伐採された桜の樹。

「私が花の会に就職した当初は、公園などに桜の名所を造る開発の案件も多かったのですが、いまは保護やケアという案件が多いですね。例えば千鳥ヶ淵緑道も、千代田区から私が理事を務めるNPO法人 東京樹木医プロジェクトへの依頼があり、診断から治療まで、約20年間にわたり行っています。また、皇居を囲むお濠（ほり）内の環境省が所管する桜の診断も行うこととなり、現在、調査を進めています」



左上：桜の樹を木槌で叩くことで内部が腐朽しているかどうか音で確認。左下：根元周辺に銅棒を挿し、根元が腐っていないかなど状態を確認する。右：幹から伸びた不定根を、養水分の吸収を補完する根として機能させる回復方法も。「これは腐朽した幹に沿って不定根を集約し処置した例で、すでに20年以上は経過していると思われます」（和田さん）

4年がかりで土壌を改良し 天然記念物の樹勢を回復

全国名所で桜の保護や管理活動を行ってきた和田さんですが、なかでも思い出深かったのが、山梨県北杜市の「山高神代桜」の樹勢回復プロジェクトだったと語ります。山高神代桜は樹高約10メートル、根元の周囲が12メートル、樹齢は2000年といわれているエドヒガンで、三春滝桜（福島県三春町）、根尾谷淡墨桜（岐阜県本巣市）とともに“日本三大桜”のひとつに数えられ、桜で初めて国の天然記念物に指定されました。

「山高神代桜は1922年に天然記念物に指定され観光資源となったため、人が立ち入らないよう根元周りを御影石で囲うよう飾り立てられ、一部の根が切られてしまっていました。以後約100年にわたり根元が圧迫され続け、枝が枯れ落ちるなど樹勢の衰えが進んだ結果、2001年に樹勢回復検討委員会が立ち上がり、診断の要請を受けました」



根を切るなどストレスを与え続けられたことから樹勢が衰えてしまった山高神代桜（2002年撮影）。

画像提供：和田博幸



4年がかりの土壌改良工事を経て、樹勢が回復した山高神代桜（2022年撮影）。 画像提供：大塚広夫

樹勢が衰えた原因は、石囲みにより根が自由に伸ばせなかったことや、樹勢回復のために囲いの中にさらに土を盛ったことで、根が呼吸しづらくなってしまったこと。また、地表面近くの根には、根こぶ線虫病という、根に養水分吸収の障害を起こす疾病があったといえます。

「樹勢回復には土壌環境の改良しないと、根を傷付けないよう養生しながら従来の土を掘り起こし、有機肥料や堆肥などを配合した培養土に入れ替えました。4年もかかりましたが、無事、樹勢は回復。以前のように春には見事な花を咲かせてくれています」

- COLUMN -

樹木医資格の認定をはじめ緑化活動全般を推進する

樹木医の資格を認定する（一財）日本緑化センターでは、樹木医のほか松保護士や自然再生士の育成と資格認定。また、地域の緑化活動を担う緑サポーターの養成などの活動を行い、地球温暖化や自然再生の課題に対応した総合的な緑化の推進に寄与しています。同センターのホームページでは、樹木医をはじめ各種資格の取得方法やこれまで実施してきた各種講座をオンラインで学べるプログラムなど、緑化活動に関する情報が満載です。



詳しくはこちら
<http://www.jpgreen.or.jp/>



画像提供：（一財）日本緑化センター

都市の桜と緑をまもるため 環境変化に対応したケアと管理を

桜の樹勢が衰える原因として5つの環境変化が挙げられると和田さんは言います。

「経年による『生理的变化』、夏場の酷暑やヒートアイランド現象が原因で樹木が乾燥ストレス状態になる『生育環境の変化』、植栽間隔の過密により成長に伴い被圧状況が悪化するなどの『管理環境の変化』、落ち葉や日照障害など近隣住民からの要望により強制的な剪定を余儀なくされる『社会環境の変化』、さらに、葉の細胞液を吸うモモヒメヨコバイや、幹に侵入して食害を起こすクビアカツヤカミキリなど、樹を枯らしてしまう外来病害虫の被害による『生物環境の変化』です。近年の樹木医はこれら環境変化に対応した保護、管理が求められています」



「地球温暖化を始め環境変化が激しいまだからこそ、都市にある緑が果たす役割は大きいはず」と、和田さんは植物の力を語る。

- COLUMN -

葉を枯らし幹に食害を及ぼす外来病害虫の脅威

樹勢を衰えさせる原因のなかでも近年問題視されているのが、和田さんが『生物環境の変化』として挙げた、外来病害虫による被害です。モモヒメヨコバイは葉の細胞液を吸汁することで葉を黄変させ落葉してしまうことも。また、クビアカツヤカミキリは幼虫が百匹単位で幹へと侵入して内部を食害し、最悪の場合、樹を枯らしてしまう可能性もある特定外来生物に指定された病害虫です。港湾調査などの水際対策にも限度があるため、早期発見による初期段階での防除が重要となります。



左：吸汁するモモヒメヨコバイの成虫。
右：幹内部を腐朽させるクビアカツヤカミキリ雌の成虫。

画像提供（左）：和田博幸
画像提供（右）：（一社）日本植物防疫協会

気候変動や外来害虫の影響、そして、樹木への人の関与など、樹木医の仕事も時代により変化が求められています。現在も樹木医として活動する和田さんに、やりがいや将来的な展望を伺いました。

「やはり、衰えていた樹の樹勢が回復できた時に、一番やりがいを感じます。千鳥ヶ淵緑道でも、復活した桜を観た近隣の方から『元気になったね』なんて声が聞こえてくると、心の中で『やった！』と思います。私たち樹木医の活動が、自然と都市をつなぐ役割をお手伝いできたら嬉しいですね」

桜の樹勢がピークを迎えるのは樹齢30年から40年程度ですが、樹勢が衰えた桜でも、樹木医が適切な“手当て”を行うことで、その先何十年も元気に生き続けることが可能であると和田さんは言います。毎年、私たちが見事に咲き誇る桜を楽しめるその背景には、樹木医の活動があるのです。



桜が満開時の千鳥ヶ淵緑道。「学生時代から親しんだ“都の桜”のひとつ。管理を任されることも大きなやりがいです」（和田さん）

今週のまとめ

樹木医は樹木のプロとして認められた資格です。

近年の環境変化に対応した処置を樹木に施し、

春を感じさせる「桜」を守り続けています。

一日の始まりに密着

農林水産業者の
朝

農林水産業の朝は早い。早朝から働く人々の様子をのぞいてみました。

第10回

畜産農家の朝

宮園春雄さん [鹿児島県鹿屋市]

鹿児島県大隅半島のほぼ中央に位置する鹿屋市。

畜産業が盛んなことで知られるこの市で黒毛和牛の繁殖経営を営む

宮園春雄さんは牛飼歴63年の大ベテランです。

山間の集落の小さな牛舎で、少頭数の牛を愛情深く大切に育てている様子を追いました。



PROFILE

1935年生まれ。飼養している母牛は現在5頭。生まれた子牛を約9カ月間育てて家畜市場に出荷している。2022年10月開催の第12回全国和牛能力共進会に、87歳にして初出品。母・子・孫の3世代にわたる雌牛の改良成果を競う第5区（高等登録群）で頂点に輝いた。

愛情をたっぷり注ぎ
のびのびと牛を育てる

AM6:00

牛舎の見回り

宮園さんは朝起きるとすぐに牛たちの様子を見にいくのが日課です。自宅の裏庭にある牛舎にいるのは、母牛5頭と子牛3頭。1頭1頭の健康状態をチェックします。

AM6:30

お茶

妻のムスビさんと土間で朝一番のお茶を飲みます。お二人は結婚して64年。ずっと一緒に牛飼いや畑仕事をしてきました。かつては麦やさつまいもなどの畑作をメインに行っていましたが、次第に牛の繁殖に力を入れるようになったといいます。「この人は昔から本当に働き者。とにかく仕事さえしていれば幸せというタイプなんですよ」とムスビさん。





AM7:30

子牛の哺乳

生後19日の子牛にミルクをあげます。ゴクゴクとおいしそうに飲む姿が実に可愛らしい。「生まれたての子牛は寒さに弱いから、風邪をひかないように」と防寒着を着せ、ヒーターで温めています。

AM7:40

エサやり

ほかの牛たちには、草主体の粗飼料と穀物主体の濃厚飼料を与えます。粗飼料は稲わら、青草、サイレージ（牧草をサイロに詰め、乳酸発酵させたもの）を混ぜた自家製です。

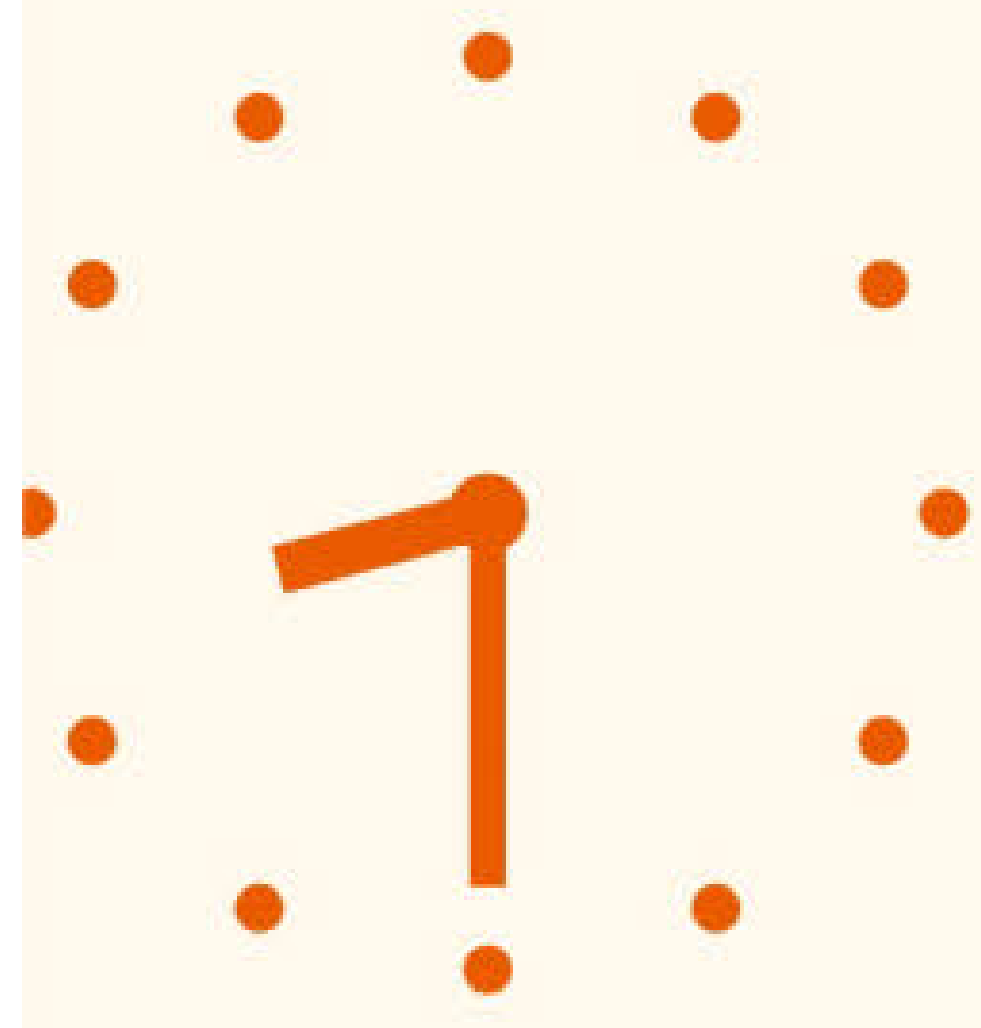


AM8:00

朝食



仲良く朝ごはんを食べます。おかずはトマト、ほうれん草のおひたし、卵焼き。お二人の元気の秘訣は、大好きな牛飼いの仕事に加え、ムスビさんが作る日々の食事にもあるのでしょう。



AMS: 30

放牧

エサをモリモリ食べておなかいっぱいになった牛たちを放牧します。牛舎の柵を開けると、自ら次々に出ていきます。「夕方、牛舎にエサを用意する頃になると、みんな勝手に戻ってきて、それぞれの部屋に自分で入るよ。だから追い立てたり、力を入れて引っ張ったりする必要がないんです」と宮園さん。



牛たちが向かった先は、裏手のスギ林を通り抜けたところにある運動場。ここで夕方まで、のびのびと自由に遊ぶのです。母牛が元気な子牛を産むためには、できるだけストレスフリーな環境を作ることが大切です。運動不足とは無縁の宮園さんの牛たちは、ストレスが少なく健康そうです。

牛たちをニコニコと見守る宮園さん。穏やかで愛情深い飼い主に育てられているからか、どの牛も人懐っこいのが印象的です。



AM9:00

青草刈り

少し離れた飼料畑へ行き、粗飼料に使う青草を刈り集めます。牛たちの好物であり元気の源です。

AM10:00

ブラッシング

牛舎に戻り、翌月セリに出すという生後8カ月の子牛をブラッシング。「もうすぐセリ前の展示品評会があるので、運動しすぎてやせてしまわないよう、今日はこの子を運動場に出さなかったんです」。黒い光沢のある体はピロードのような触り心地。子牛自身も毛並みを整えてもらいながら、目を細めて気持ちよさそうにしています。



AM10:30

お茶

土間でお茶を飲みながらひと休み。冬場は畑仕事がないので、比較的のんびりできるそうです。お二人の会話からは、我が子のように愛情をかけて牛を育てている日常が伝わってきます。60年以上、牛とともに生きてきた宮園さん。「体力が続く限り、牛を飼っていききたいね」と話していました。

COLUMN

育てた3世代の雌牛が第12回全国和牛能力共進会で首席に



県道に面した宮園さんの自宅敷地には「日本一おめでとう！」の横断幕、土間にはたくさんのトロフィーがずらり。これらは2022年10月に鹿児島県で開催された第12回全国和牛能力共進会での快挙を称えて贈られたもの。5年に1度開催されることから、“和牛の祭典”とも呼ばれている全国和牛能力共進会は、全国から選りすぐられた和牛を一堂に集めて、改良成果を競う大会です。この一大イベントの第5区（高等登録郡）に出品した宮園さんの雌牛たち、こづる・なつみ・さくら（母・子・孫）が首席に選ばれたのです。第5区は、3世代にわたり長所が受け継がれているかなどを審査される出品区。高齢の小規模繁殖農家が育てた3頭が見事日本一になったということで、この受賞はかなり注目を集めました。「特別なことは何もしていません」という宮園さん。昔ながらの育て方が高く評価されたことは、畜産業の生産基盤を支える小規模繁殖農家の方々の大きな励みとなっています。



＼ 農山漁村を元気にする ／

廃校再生

プロジェクト



農山漁村の新たな拠点として注目されている
廃校活用事例を紹介します。

第10回

THE 610 BASE

(ムトベース)

[京都府福知山市]

地域と人を結び

たくさんの笑顔を生む

体験型農業施設



京都府北部、福知山市の中心部から車で20分ほど。旧中六人部（なかむとべ）小学校は、山々に囲まれ田畑が広がる自然豊かな中六人部地域にあります。いちご摘みができる体験型農業施設「THE 610 BASE（ムトベース）」に生まれ変わったのは、2020年10月のこと。廃校に再び人が集うようになり、地域活性化の拠点となっています。

／ 農業で地域の課題解決に挑戦 ／

少子化が加速する福知山市では、2012年度から2020年度まで小学校の統廃合が進み、16校が廃校になりました。中六人部小学校もその一環で2018年3月に役割を終えることとなったのです。思い出が詰まった学校跡地をどう有効活用したらいいか、中六人部地域の住民の方々は頭を悩ませていたといいます。そんな折に活用を申し出たのが、福知山市内の電気設備資材卸会社、井上（株）でした。



旧中六人部小学校



井上大輔社長

同社の井上大輔社長は、地域密着企業として福知山市の課題解決に貢献できる新規事業はないかと模索していました。社内の意見を聞いたところ、家族や親戚など身近な人たちが営んでいる農業の未来を不安視する社員が少なくないことがわかります。そこで、まったく畑違いの農業に取り組むことを決断。まずは電気事業で培ったIT技術で環境制御できる、いちごのハウス栽培を始めようということになりました。

さっそく農地探しをする中で、廃校活用のアイデアが浮上します。日当たりや広さなどの条件に適していたことから、廃校になって間もない中六人部小学校が第一候補に。跡地活用事業の公募型プロポーザルで「農業を通じて地域課題の解決に挑戦したい」と訴えたところ、熱意が評価され、活用事業者に選定されたのです。2019年12月に市と10年の賃貸借契約を結び、校庭に7棟のビニールハウスをつなげた2,142平方メートルの栽培施設を建設。井上（株）の社員4人で結成したアグリチームのメンバーが農業指導を受け、いちご栽培をスタートさせました。



ビニールハウスをつなげた栽培施設



甘い香りが漂うハウス内

ハウス内の温度・湿度・灌水・施肥などの管理は自社の制御技術で自動化しています。栽培品種は章姫（あきひめ）、かおり野、紅ほっぺの3種。合わせて約1万4,000株の苗を育てています。12月下旬から5月下旬までの収穫シーズンには、7トンほどのいちごが実るとか。2020年10月に体験型農業施設「THE 610 BASE」としてグランドオープンすると、福知山市内外から多くの人が遊びに来るようになります。その数は年間約1万人に上り、廃校に再び賑わいが生まれています。

\ 合言葉は「FUNMER(ファンマー)」 //



森翔平さん

アグリチームのリーダー、森翔平さんは「いざ農業を始めたら、毎日がすごく楽しくて、忙しさも苦になりません」と笑顔を浮かべます。農家の祖父母を見て、農業は大変な仕事と知っていたため、自ら始めるまで、まさかこんなにクリエイティブで面白いとは思わなかったそうです。「それに普通の農家と違って、ここへはたくさんの方がいちごを買いに来たり、いちご摘みに来たりしてくれます。来場者と交流できるのがまた楽しいですよ」

THE 610 BASEの合言葉は「FUN（楽しい）」と「FARMER（農業者）」を組み合わせた「FUNMER（ファンマー）」。

農業自体を楽しむコンテンツにしようと考案した造語です。農業を通じてたくさんの笑顔を生み出したい。作り手も来場者もみんなが笑顔になれる施設に。そんな想いが込められています。ちなみに施設名は、地名の「六人部」を数字化し、人々が集う「基地」になるようにという想いを重ねて付けられました。



「楽しむ農業」がスローガン



いちごたっぷりのパフェ

「僕たちはいちごの栽培と直売だけでなく、お菓子やジャムも自分たちで加工販売しています。何でもやってみようというチャレンジ精神が弊社のモットーなんです」（森さん）。現在、アグリチームのメンバーは社員3名、嘱託社員・アルバイトスタッフ4名の計7名。お菓子作りの得意なメンバーが、新鮮ないちごを使って作る、おしゃれなスイーツメニューの数々が好評です。

\\ おしゃれな空間づくりにこだわる //



エントランスホール

おしゃれといえば、校舎内も学校らしさを残しつつ、スタイリッシュにリノベーションされています。特にエントランスホールは、アーティストが描いたパステルカラーの壁画や、フランスの学校で使われていたブルーのベンチなどが目を引くSNS映えスポット。中六人部小学校の卒業生からは、「母校がこんなにかっこよく生まれ変わってうれしい」と喜ばれているそうです。



SLIDERS CAFE

カフェは元視聴覚室をリノベーション。ヴィンテージのソファや壁のサインペイントが、これまたかっこいいと評判です。「おしゃれな空間づくりにこだわりました。僕たち大人がおしゃれな施設で楽しそうに働いている姿を、地域の子どもたちに見せたいんです。地元の魅力をもっと知ってもらえたら、将来、大学進学などで都会に出ても、福知山に戻ってきてくれるのではないかと期待しています」（森さん）

\\ 地域とともに、この場所を盛り上げる //



いちごスイーツ作りのイベント



こどもたちの笑顔があふれる

地域住民が楽しめるさまざまなイベントを企画し開催しています。「廃校活用は地域の方々の協力なしに進めることはできません。中六人部地域の自治会の方々は、最初から『一緒にやろう』という前向きなスタンスで接してくれました。今も何かを決めるときは、必ず行政と地域の方々と3者協議しています。みんなでこの場所を盛り上げていこうという団結力がすごいんです」（森さん）

2023年春には、校舎内にクラフトビール醸造所が完成予定。すでに原料となる麦を地域の方々と一緒に栽培しており、間もなくオリジナルクラフトビールの製造・販売を始めるそうです。新しいことに貪欲にチャレンジし、農業を通じた福知山の魅力発信基地として、今後も進化を遂げていくであろうTHE 610 BASE。次は何を始めるのか、目が離せません。



クラフトビール醸造所を準備中



THE 610 BASE



<https://fields-the-base.jp/>